できちゃった じゃ～ん

スカジャン 大好きー

のたろん

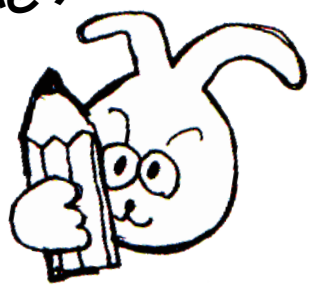
夏号

(((すかっこの 市民活動情報)))

サポセンでは、新型コロナウィルス感染拡大にともなう市民活動への影響について、登録団体のみなさまに向けてアンケートを募りました。

アンケートのお願い郵送数：696 件
回答期間：2020 年 5 月 29 日～ 6 月 17 日
ご回答件数：154 通（内訳：インターネットから 69 件、郵送や FAX など 85 件）

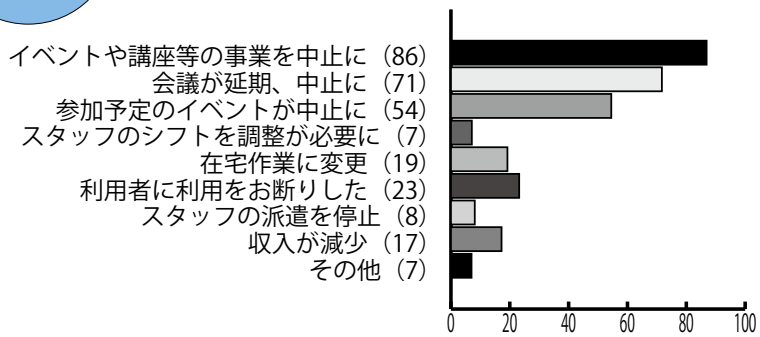
貴重なご意見いっぱいお預かりしました。ありがとうございます！



※この集計は、そのうちの 3 分の 2 のテキストの集計で、全体の集計の予告編となります。
まとまり次第、サポセンのホームページ「のたろんジャーナル」に掲載予定です。

影響

どんな影響が？

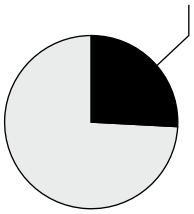


対応

どんな対応をした？

- 助成金を受けている事業への対応
- 延期ではなく中止の決断
- 活動を 1 年間中止とした
- 書面会議、リモートヒアリング
- スタッフの交代勤務
- 寄付が減った
- 自主トレ
- ただただ終息をすることを願って自粛している。
- 来季に向けて準備をしている状況です

対応で困ったことは？



困らなかった（24%）

- 収益事業ではないので、現状を受け入れその範囲で出来ることを考えた。

困った（76%）

- 活動展示を行う場所が無かった
- さみしいと皆に言われ、困った
- 体力低下　チーム力低下
- SNS 等での配信を検討したが、表現に誤解を生じないか検討した結果あきらめた。
- メンバーが減ってしまいました
- 出荷先がクローズになってフードロスの不安
- ボランティアによる活動は停止、職員による対応のため、負担が増えた。
- 中止によりポスター等の作成費用がかさんだ
- 打合せもできず、印刷もできず
- 見通しがたてられず、夏と秋のイベントの参加方法にも苦慮
- みんながオンラインで対応できるとは限らない。

工夫

工夫したこと、ある？

- 日ごろの事業以外のさまざまなニーズの掘り起こし
- 屋外での青空ミーティング
- オンラインでの練習会を開催
- 感染拡大防止対策の徹底と各自の体調管理
- 各種 SNS の活用と、配信の継続
- 期限付きの活動ではないので、解除されるのを待つのみです。
- ひたすら自宅待機、自己健康管理、必要なら電話連絡
- 郵送手段を使い「必要書類」「教材」などをメンバーの手元に届け、各自が自習する方法

参加者、利用者に、どのようなご案内をした？

- 利用者側からの自粛意識が強いです。
- 「横須賀市からの方針なので、・・・」との対応。
- 行政に協力していただき、会員の自宅でできる作業協力をしています。

反応がありましたか？

- 残念だ、残念だけどしょうがない、次回を期待してます、などたくさんのご意見を頂きました。
- コミュニケーションの機会が減るのが残念。

今後

今後の対応について、会員、スタッフと共有している方針があったらきかせて？

・コロナより怖いものはこの世にはたくさんあること。（普段の業務の方が危険なものをたくさん扱っているので）
・政府や行政の対応に準じて、対処する。
・新型コロナが、落ち着くまてまつ。
・この際、解散を考えている。
・来年のイベントに向かっていちから出直す。
・不安にならない。格差をなくすためにできることを行う。
・フェイスシールドや消毒液など用意
・販路開拓
・リスクを「持ち込まない・持ち帰らない」
・原点に戻ることのないように通所者の集まりに三密に気を配り集団発生防止に対応協力の継続

これから、どんな影響があると予想しますか？

・スマホの需要が増えるかと。
・親密に話ができない。耳の遠い方もいて、密にならないように心がけるのが大変です。
・寄付が減る
・赤字になってしまう懸念
・大人数で室内で集まるイベントはできないと感じています。
・飲食を伴うイベントは対策をしっかりと練らなければいけなくなること。
・社会生活の変化に伴い、ニーズが高まるのではないかと考えています。
・事業中止により会員の減少
・活動場所が減る
・やはり集合離散が出来ないと、個々の意識レベルが著しく低下が懸念される。
・街とのかかわりも大事にしてきたので、オンラインにも限界が。
・以前と同じ状況に戻ることは難しい。ウィズコロナを前提に新たなノウハウを積み上げていくしかない。
・マスク、フェイスシールドをした上で継続可能と考えて対面で会合を希望している。
・オンラインミーティングも慣れないとかなり疲れるので、ミーティング開催頻度も減る。
・団体の存続が危ぶまれる感じ。

対策

どのような対策を考えていますか？

・支出を減らす
・予約制、人数を絞ったあまり他の方との触れ合いがないものにしようと思います。
・イベント自粛
・各種給付金等の申請
・支援活動者を募って行こうと思います。若い世代の人探しをします。
・今は、活動再開の時期を待ち、新し企画を練っている。

そのために、必要なことは？

・活動をアピールできるようなイベントなどの場
・サポセンには再び夜まで、ミーティングコーナーや印刷機が使えるようになってほしい。
・感染拡大防止対策として購入する衛生用品の支出が増えている為、経済的な支援を頂きたい。
・どの場所も Wi-Fi 環境があると助かります
・会費の見直しか？
・年齢層が高いのでパソコン等での通信が不得意者が多いのでむずかしい点です。
・オンライン上のコミュニケーションに慣れる場が必要。Zoom ミーティングも慣れ、Zoom を使った講座開催も慣れ、参加する側も慣れが必要。

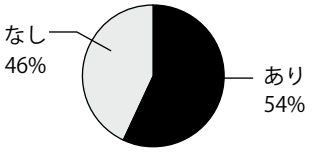
要望

行政や助成団体などの他組織へのご要望があれば、おしえて？

・私たちの団体の存在の周知と利用促進につながるような情報を提供して
・広報よこすか伝言板等で活動の広報の間口を広げてほしい
・アンケート調査などにも協力してほしい
・「あれはダメこれはダメ」ではなく「こうすればできる」「こういう方法もある」など、前向きの提案や援助・支援が欲しい。
・市民活動への助成制度の充実。
・家賃がある団体さんへ家賃補助を
・イベント中止による減収があるので、助成金の増額や緩和をしてほしい。
・財政的支援　特に家賃等固定費の給付等
・人件費等、経費削減の努力をずっと行ってきているが、年々、赤字経営となり、運営がかなり厳しい状況のため、委託金の増額、資金援助をお願いしたい。
・テレワークの推奨等であれば、ハード・ソフト・費用面の補助
・フリーランサーの音楽家に市としても助成してほしい。

オンラインを活用している・活用をはじめた団体 5 割以上！

アンケートの回答には、インターネットの積極的な活用をしている団体が目立ちました。
告知には、facebook などの SNS、Web 動画の作成と配信なども！
打合せは、LINE や Zoom などのアプリを使ったオンライン会議
リモートワーク、テレワークという言葉も目につきました。



オンラインキーワードが
含まれていたアンケート回答

逆に

悪い影響ばかりではないな … と思ったことはありますか？

オンラインにチャレンジできた

・Web 会議に挑戦した
・動画作成（自撮り）に挑戦した
・オンライン開催に踏み切ったことで、新たな人とつながることができた。市街の人にも見てもらうことができた。
・WEB 会議をやった。それに伴う定款変更も行えた。
・web 会議や電磁的方法による総会の開催を初体験した。こういう方法もアリだとは思うけれども、人との何気ないやり取りの大切さも大事と認識した。
・WEB 会議を試したところ、いつもは子育て中や遠方で参加できない会員が参加でき、それは良かったです。
・オンラインワークショップにチャレンジしようと思っています
・zoom の使い方を学んだ。また、SNS で困っている旨を周知したところ、今まで取引のなかった業者さまたちからお声掛けを頂いたり、人の温かさと優しさを改めて感じました。
・WEB 会議に挑戦した。今まで連絡に加入してない団体がつながりを求めてきたのはよかった。
・WEB 会議等、自宅にいながら話し合える環境は今後検討したいと考えている。
・情報伝達手段としてホームページの更新頻度を上げた。
・新たに LINE やビデオ通話・ウェブ会議に、挑戦できた。

新しい視点を持てた

・いつもと違う活動を実施できた
・一堂に会しての会議でなくても、種々の対応があることが分かった
・野外で遊ぶことを中心にしてましたが、Zoom 等を使った自然観察会、博物館・出版社等の自粛中にできる新たな試みの情報を得ることができて、活動の幅を広げる可能性を感じることができた。
・ＬＩＮＥが役立った。
・LINE 会議で編集会議ができ、時間を有効に使えることがわかった。・書類の整理が出来た。

つながりを感じた

・ボランティア同士の交流がふかまったかなと思う
・活動に対しては悪い影響しかなかったが、会員同士がお互いの健康を思いやる様子を多く感じた。
・野外活動（田、畑等）がはかどった。

あらためて活動の大切さを知ることができた

・合唱の団体ですが、出来なくなって意義を感じ、大切にしなければと思う
・普段、会えない仲間たちとの分かち合いが出来たこと。何が大切か、物事の本質を考えるきっかけになった。
・手紙・はがきで勇気づけられることを再確認した。

時間ができた

・ＰＣ、スマホの取り扱いレベルが上昇した
・企画を検討する時間ができた
・事務処理作業の整理。
・資料の整理が出来、会の歴史を見直せた。顔を見ての繋がりがほしいと思った。

他に

その他、今回の新型コロナウィルス感染拡大について、
団体として気になっていることをおしえてください。

・会いたいです
・メンバーが高齢者が多く、やはり慎重にならざる負えない
・海の環境問題を活動の中心にしているので、海離れをしてしまう大人、子どもが増えてしまうのが心配。
・災害ボランティア定番の人海戦術が使えない。これまでと全く違う新たな活動の仕方を考えていく必要がある。
・仲間同士で、うつしっこしないように！

ひと ～市民活動を支える人たち～

Oppapamamaile 代表　神馬（じんば） 彩夏（あやか）さん

追浜で子育て中のパパママのための活動をしている、Oppapamamaile のみうらんこと神馬さんにお話を伺った。神馬さんは、YouTuber としてタウンニュースやテレビ神奈川にも出演した。

1990 年横浜生まれ。小学生のときから、ホームページ作成サイトを使ってホームページを作ったり、中学・高校生の時期には、インターネット掲示板や交流サイトを使う。オンライン上で知り合った人と会ったりするのに抵抗がないという、インターネットネイティブ世代だ。

小学生のときは何時も笑っていたと友人に言われる。クラスみんな仲良くしようという気持ちが強かった。

中学生時代はバスケ部に所属、試合に出られなくても３年間在籍した。文化祭の実行委員や幹事をし、「私がやらなきゃ」と思うのを楽しさに変えて、みんなを引っ張っていった。

高校は、横浜市立みなと総合高校。単位制の高校で、２年次からは、自分で授業を選び教室を移動する。ひとりひとりの意思が尊重され、自分たちから企画を立てて、担当教員を見つけてイベントができた。恒例となっているお泊まり会の幹事もした。

中学とき、ディズニーランドのお姉さんになるのが夢だった。高校の先輩がディズニーランドでアルバイトをしていて、神馬さんも高校２年からバイトを始めた。土日はディズニーランド、平日は３日間スーパーのレジのバイトに勤しんだ。

進路を考えたとき、いとこの結婚式を見てからウエディングプランナーになりたいと思った。けれど、専門学校に進んで自分に合わなかったらと躊躇。また、大学に進学したら、ディズニーランドのバイトをつづけてそのままフリーターになるだろうと思った。一度は就職した方がよいと考え、自転車で通えて定時退社、土日休みでボーナスが出るという好条件の工場の事務職を選んで就職した。

就職して３年目の３月１１日、東日本大震災が起こる。突然の災害で失われる命もあると感じた。「明日死んでも悔いの無いように生きよう」と思った。日々の仕事に追われていてよいのか？という疑問も生じた。８月には神奈川県が出しているボランティアバスに乗り被災地へ。側溝の掻き出しをおこなう。その後、ボランティア支援をしている団体と知りあうことになり、頻繁に被災地に行くようになった。仮設住宅でのお花見には、毎年通ってきた。

数年後、ボランティアで知りあった飲食事業をしている経営者の方から、ウエディングプランナーをしないかと誘いがあった。転職し、古民家を使った結婚式を行ったり、３０件ほどの式を担当した。

結婚後、追浜に居を構え通勤していたが、育児休業に入る。「私は子どもと一緒に遊ぶのが苦手。すぐに行けるところに親や友達がいる私でも大変なのに、世の中のお母さんは、なんて大変なんだ」と思った。お母さんたちの大変さをもっと世の中に知ってほしいし、親のケアが必要だと考えた。追浜地域のパパママの力になれたらと思い、地域密着のママ向けインスタグラムを立ち上げる。追浜で同じようなアカウントを立ち上げた方に、一緒にやりませんかと声をかけ、2018 年、Oppapamamaile がスタートした。LINE の登録数は 180 名を超え、隔月でイベントを行ってきた。最近では、商店会や行政も巻き込んで、地域に密着した活動を行っている。

コロナ禍で滅入っているとき「本当にすばらしい取り組みの発信いつもありがとうございます。なんだか気にしてくれているという方がいるというだけでも、気持ちが少しほっとします。スタッフのみなさんもお体大事にしてくださいね」こんな、メッセージが SNS に入ってきた。発信していることに無駄はないんだと感じて、また頑張ろうと思ったという。

今後やってみたいことは、Oppapamamaile を企業にしたい。ラジオＤＪ、人と人をつなげる仕事をしてみたいと話してくれた。

ボランティアを契機に若くして様々な経験を積んでいる神馬さん、追浜を住み家として大空に羽ばたいて行くのだろうと空想した。

（はこざき）

団体紹介

団体名　**Oppapamamaile**

追浜＋パパ＆ママ＋スマイル＝Oppapamamaile　略してオパイル。
追浜での子育てをもっと楽しみたいと結成した団体です。

新着情報

FM ヨコハマ BUZZ STUDIO に出演！
金曜深夜 3:30 ～ 5:00 生放送 これから月に 2 回ほど出演予定です。
エフヨコ専属の YouTuber としてエフヨコチャンネルに動画も載せていきます。

直近では、
7 月 3 日と 17 日に
出演予定です！

おしえて ぬまちゃん

市民活動はちいさい疑問から！ のたろんが市民活動のことをサポセンスタッフぬまちゃんにききます。

のたろんまだまだ SDGs のことが気になっているようです …

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ねぇねぇ、サポセンのね、入り口にある顔出しパネルが SDGs のやつだっていうのは分かったけど、SDGs って簡単に言うとどういうことなの？

うーんとね。今地球上で抱えている問題を、世界中のみんなで協力して良くしていこうっていう目標かな。

世界中のみんなってことは、のたろんも関係ある目標なの？

そうね、SDGs って国とか企業とかの為の目標みたいなイメージをしがちだけど、私たちひとりひとり関わっている問題であり目標なのよ。

のたろんも何か、えすでぃーじずできるかなぁ。

そうねぇ、のたろんは最近スーパーでレジ袋が有料になりました〜って言われたりした経験ない？

あるー！　のたろんがよく行くスーパーは４月からレジ袋が有料になるからエコバック持ってきてねって張り紙がずっとしてあったの！だから、のたろんはエコバックを用意したのです。

ふふふ、偉いわね。のたろんそれが SDGs の活動の一部になってるのよ。

ええっ！？　なんでー！？　じゃあのたろんがエコバック持っていくのがえすでぃーじずしてることになってるの？

神奈川県では「かながわプラごみゼロ宣言」っていう SDGs の取り組みをしていてね、その中でマイクロプラスチックも無くす為に、プラスチック製のストローやレジ袋の回収・廃止しようっていう取り組みを始めたの。だから、そのスーパーも SDGs の取り組みをしていることになるのよ。

レジ袋も貰えなくなるなんて、スーパーのオーナーがケチな人に変わったんだと思ってたよ！誤解するところだった！あぶない！

私、今、SDGs について色んな人に知ってもらう必要性を強く感じたわ…。

甘党錦鯉 第6話

甘党レシピを探す

ゴリゴリゴリゴリ…

自宅で過ごす時間が長くなっている今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

筆者も自宅で仕事をするようになり、巣ごもり生活を送っております。自宅と職場との往復の時間が無くなった分、空いた時間で我が家の愛錦鯉と戯れつつ、お菓子を作ってほのぼのしております。

…ということで、本日はすり鉢とすりこぎでゴリゴリしています。

すっているのは何かというと…ゴマではございません（笑）。なんと、我が家の庭に自生しているヨモギです。草餅などに使用される野草ですね。柏餅などで皆様のお口に入ることも多いかと思います。これがまた、採ってきたときの量に比べると最終的に食べられる量のなんと少ないことか…和菓子屋さん、いつも美味しい草餅をありがとうございます…

そんなことを考えていたら、ふと大事なことに気づきました。

「あ、レシピがない…」

「そんなことか…」と思われるかもしれませんが、初心者がお菓子を作るときって、レシピ通りに作るのが成功の秘訣なんだそうです。その場でキョロキョロしてもレシピ本が見当たらないので、ひとまず我が家が誇る「歩くレシピ本」（＝母）に協力を要請して草団子を作ってみました。

できた草団子をモグモグしながら、考えているのは池のレシピ（手順書）について。造園業の方のホームページを見ていると面白いのですが…ハードルタッカイナァ、コレ…

とまぁ、だいぶ迷走しておりますが、今回ものたろんジャーナルに草団子と我が家の錦鯉を載せていただいております。ご興味のある方はぜひご覧ください。

「庭に池を掘る。」

筆者のあくなき挑戦は明日からも続く〜。（小串滋彦）

********** サポセン topics トピックス

サポセンの 新 スタッフ紹介

趣味は、フラとお寺めぐり！

ながさわ　りかこ
長澤 里夏子さん

活発で好奇心旺盛

これからやってみたいこともいっぱいあります。自転車で、三浦半島や鎌倉・・・行ってみたいところもいっぱいあります！

どうぞよろしくお願いいたします！

のたろんがお送りする「のたろんジャーナル」

◆サポセン発信情報
◆E メール info@yokosuka-supportcenter.jp
◆サポートセンターのホームページ
「のたろん Web」は “のたろん” で検索♪

のたろんジャーナル

のたろん　検索

情報誌「のたろん」夏号（通巻 83 号）　2020 年 7 月 1 日
発行 横須賀市立市民活動サポートセンター
編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMC A コミュニティサポート
横須賀市本町 3-27（京浜急行汐入駅徒歩 1 分）
TEL ０４６－８２８－３１３０
FAX ０４６－８２８－３１３２
市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用票のご記入をお願いします。

編集ボランティア／はこざき・みずたに・おぐし
スタッフ／ぬまさき・のぎむら